巻　頭　言

機器分析評価センター長
荻野　俊郎

お役所仕事という言葉がある。ほとんどの人の思い浮かべるのは、実質より形式が先行し、利用者側に立ったサービスを提供していないマイナス面である。私が学生だった頃の国立大学は入学希望者があふれ、サービスを考えなくても学生は集まったので、学生向けの設備は貧弱であった。私は 2002 年 11 月に本学へ赴任した。わずか 10 年と少し前には、教室や食堂にエアコンはなく、学生の集う場所もほとんどなかった。しかし、時代は変わり、学生向けサービスの向上が急速に進み、中央図書館や第二食堂のように新しい施設の設置や既存施設の改装がずいぶん進んだ。そうしなければ、立地条件の良い国立大学法人でも学生から人気を失ってしまう状況がきている。

機器分析評価センターでも、研究に必要な機器を設置・維持し、実験データを出すだけでなく、教職員や学生が研究を楽しめる場も提供したいと考えている。当センターにはセミナー室があり、学内外の講習会などに使用しているが、それ以外は活用されていない。インターネット環境を作り、実験の空き時間にデスクワークができるようにするところである。単に空いていれば使ってよいですよ、というだけのことであるが、機器分析では研究室に戻るには中途半端な空き時間がしばしば発生するので、うまく活用してほしいと思う。また、利用者サービスではないが、オープンキャンパスの参加者に積極的に呼びかけ、高校生に大学らしい研究設備を見学してもらうように働きかけている。少しでも理系に興味を持ってもらえれば幸いである。将来は、機器分析評価関係の研究交流や実験ノウハウの授受の場などを提供できたらよいと考えている。

そうは言っても、第一のミッションは利用者に設置機器の性能を 100%、常に提供することである。各大学の機器分析関係のセンター運用に関する情報交換の場として、機器・分析センター協議会というものが設置されている。参加大学が 10 ページに、議事内容については 11 ページに記載されている。その協議会で、横浜国立大学の利用者サービスについて紹介する機会があったので概要をお伝えする。まず、当センターの業務一般と利用支援システムについて紹介し、利用者が機器の利用可能な時間を検索して予約できること、操作ミスによる不稼働時間をなくすために多くの装置で講習を義務付けていることなどを紹介した。ついで、概算要求等につく設備維持費と学内利用料金相当額が予め措置され、その 50%程度をセンターで保留し、機器の不具合やバージョンアップに迅速に対応できる体制を作っていることを報告した。現在のところ、修理が必要な場合には確実に経費の措置ができている。各機器をご担当の教員各位にはご理解いただいており、センターを代表してお礼申し上げるとともに、今後もその方針を継続したいと考えている。ただ、今年度は一部の装置で非常に混み合う事態が発生し、利用者に不便をかけてしまった。いろいろ特別な事情はあったにしても、利用者の多い装置は複数台設置することが望ましい。新規購入装置の選定からセンター内での生活まで、利用者側に立って改善を図っていきたいと考えている。ご理解とご協力を宜しくお願いします。